まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第277号
2026. NOV
令和８年11月１日
発行　宮城県丸森町議会
編集　議会広報常任委員会



これからの町を担う中学３年生　全員集合

（表紙のことば … 28ページ）

９月議会

中学生の視点で町政を問う …… 2 ページ
大幅補正と変わる議会 …… 6 ページ
まちづくりへの要望 …… 13 ページ
一般質問 ８人の議員が町政を問う …… 14 ページ



丸森町公式キャラクター
ねこがみとうぐいすP

中学生の視点で町政を問う

令和８年度 明日（あす）の丸森を考える丸森中学校模擬議会　３年生84名と議員・町長・教育長が議会に臨む



小野　琳久 議員



吉野　永眞 議員



開会行事司会　門間　丈 さん



相談役：長谷部 庵琉 議員・二階堂 春輝 議員

第1部①吉野　永眞　議員

若者の流出を防ぐには

問　人口戦略会議によれば、丸森は宮城県で消滅可能性が1番高い自治体とされた。若者層が丸森に残り、若年層の観光客が足を運び入れたくなるようなことに、どう取り組んでいるのか。

答　子育て世帯向けに学校給食費の無償化実施や若者定住住宅の整備等で移住定住促進に取り組んでいる。

　また、舟下りにラプラス号の導入や猫神祭りを実施し若者観光客の増加を図っている。さらにSNSでの情報発信を充実させていく。



相談役：佐藤 陽太 議員・佐藤 達希 議員

第1部②小野　琳久　議員

観光地の魅力向上は

問　減少した観光客数をかつての60万人台まで回復し、さらなる増加を見込むようどう取り組むのか。

　また、中学生を含め若者の案を取り入れ、食べ歩きグルメを開発してはどうか。

答　ＭＩＺＢＥステーション内に観光施設やイベント広場を整備するとともに、宮城オルレ丸森コースを設定し、観光客を呼び込む計画である。また、観光客の楽しみはグルメや土産品である。皆さんにも丸森ならではのグルメを開発してほしい。

模擬議会に参加して



浅倉 真璃花さん（1組）

　模擬議会を体験し、町は多様な住民の声を真摯に聞き、ともにまちづくりを進めていく必要があると実感しました。世代を超えた議論を重ねることで、多様な視点を取り入れた課題解決が可能になることが分かりました。

　自分達の意見が町の課題解決や発展につながると知ったので、今後も町の未来に関心を持ち続けたいです。また、自分にできる地域の活動に取り組んでいきたいと思いました。







　９月29日、町の将来を担う中学生が二元代表制による政策決定の過程や議会運営について体験するとともに、まちづくりへの関心を深めることを趣旨とした模擬議会を議場で開催しました。

　議会では３年生がクラスごとに３組に分かれ、生徒の中から議長や質問者、相談役を決めて執行部役の議員に対し、町の課題や将来について、一般質問を行いました。



第1部　浅倉 真璃花 議長



第3部　冨田 めぐる 議長



第2部　前山 彩花 議長

現職議員も 驚く鋭い質問

総合的な学習の時間　町の課題を考えて議場で提言



閉会行事司会　小野　杏 さん



石井　千暖 議員



志藤　蒼生 議員





齋藤　源 議員

第2部　齋藤　源　議員

問　**現在ある空き家や空き校舎を利用することで地域活性化が期待できる。空き家や空き校舎を利用して、商業施設や子どもの遊び場などを設けることを検討してはどうか。**

答　行政が施設を整備する場合には、整備後の維持管理や運営に係る財政負担も十分な検討が必要である。

民間事業者や地域団体、住民などの意見を取り入れ、既存施設をどのように地域活性化につなげていけるかを慎重に検討していきたい。



相談役：菊池 光稀 議員・菊地 智哉 議員

第3部①志藤　蒼生　議員

問　**第六次丸森町総合計画の中で、若者世代が住みやすいと思える環境の構築とあるが、若者の負担となる町債額を残しては、若者の人口減少をさらに促進すると思う。町債額の返済計画はどのようなものか。**

答　町債は、第六次丸森町総合計画に基づき、計画的に実施する事業に充てるために借り入れを行うものである。借入年度や種類ごとに管理し、返済額をしっかりと把握して町債残高が増えないよう管理している。



相談役：推谷 知央 議員・岩佐 一輝 議員

第3部②石井　千暖　議員

問　**阿武隈急行線のIC化は阿武隈急行線の利便性向上のため、地域連携ICカードを導入し、利用者の負担軽減や利用促進につなげる考えはあるか。**

答　利便性向上や負担軽減は重要な課題だが、ICカード導入の初期投資には約27億円かかる試算であり、現状では難しいと考えている。阿武隈急行線の維持を基本として、費用対効果や財源を踏まえ、沿線自治体及び阿武隈急行株式会社と連携のうえ検討していく。



相談役：八巻 葵 議員・藁谷 怜俐 議員

模擬議会に参加して



前山　彩花さん（2組）

自分達の提案を町に実行してもらうことは難しかったです。お金や場所の問題が次々と出てきて、簡単には実行に移すことができませんでした。しかし町のことをよく考え、何が課題でどのようなことをするべきなのかを学ぶことができました。

中学生や若者も丸森をより豊かな町にするために、これからも意見を持ち、考え続けたいと思える体験になりました。

ひとことインタビュー



大沼　聖良先生（社会科）

全国的にも稀有な模擬議会を実施してくださり、授業や教科書では得られない体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝申し上げます。将来の丸森を担う子どもたちへ、町民の皆さま、議会や行政の皆さまの温かいご支援を今後ともよろしくお願いいたします。



模擬議会に参加して



志藤　蒼生さん（3組）

今回の模擬議会では、授業で習った議会の仕組みを実際に体験することで、新たな視点から深く学ぶことができ、とても良い経験となりました。

実際に自分で一般質問を考え、発表することで、自分の考えを相手に伝える難しさを知るとともに、分かりやすくハキハキと伝える議員さんのすごさを強く実感しました。今回の学びを、今後の生活にも生かしていきたいです。

大幅補正と変わる議会

9月議会のあらまし

定例会は9月2日から15日まで開催しました。

主な議決内容

◆令和7年度各種会計決算の認定

◆報告　5件
（決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告ほか）

◆教育委員会教育長及び教育委員任命の同意

◆条例制定
（法令の改正に伴う関係条例の整理に関する条例）

◆条例の一部改正　2件
（町税条例の一部改正ほか）

◆監査委員選任の同意

◆一般会計ほか7会計の補正予算

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。

一般質問は8人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長に質問するなど、活発な議論を行いました。

また、専決処分指定事項の一部改正と令和7年度各種会計決算に関する要望決議を発議し、可決しました。

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。

主な補正予算

あぶくま荘の照明設備更新工事に2400万円

あぶくま荘の照明設備をLED化するための予算を承認しました。

令和9年末に蛍光灯の製造が終了することから、9年度予算での施工を予定していましたが、近年の資材不足などを鑑み、8年度中に工事を行います。

なお、観光施設におけるLED化については順次実施されており、今後は斎理屋敷の照明設備についても工事が行われる予定です。



LED化されるあぶくま荘のレストラン

原発事故対策費は12億9804万円減額

仮置場集約事業については、集約予定地域の皆様にご理解いただけるよう慎重に協議を進めていることや、埋蔵文化財の調査が生じたことで事業内容や工程の見直しが必要となりました。

見直しに伴い、運搬業務をはじめとした委託料や工事費の予算の減額を承認しました。

議会議員補欠選挙費に1537万円

議員定数14人に対し、欠員が4人となった町議会議員の補欠選挙の予算を承認しました。予算の内容は、選挙運動費用の公費負担や人件費、委託料等です。

教育長・教育委員の選任に同意

教育長及び教育委員の任命に関する議案は議員全員が同意しました。



◇教育長（任期3年）
佐藤　純子　さん



◆教育委員（任期4年）
小野　祐子　さん

議会選出監査委員の選任に同意

監査委員2人のうち1人は、町長が議会議員から選任し、議会の同意を得て決定します。

町長からは、石井央議員の選任に同意を求める提案がありました。議長及び本人を除く8人による起立採決を行った結果、町長提案のとおり同意することに決定しました。

議会運営委員会委員の選任

議会運営委員会委員3人が欠員となったことから、議長指名にて、新たに大槻孝雄議員、山本明徳議員、石井央議員が選任されました。



丸森町議会改革等調査特別委員会中間報告

委員会活動の状況について委員長より中間報告がありました。

委員会では8回の会議開催のほか、正副委員長による各種団体との意見交換会や議会懇談会において意見聴取等を行いました。

協議の結果、議員定数等については、次のとおりとなりました。今後の検討結果は、引き続き議会だよりなどでお知らせします。

【議員定数】

現在の議員定数を2人削減し、12人とする。次の一般選挙から適用する。

【議員報酬】

継続協議とし、令和8年10月末までに最終案をまとめる。

【その他】

議会基本条例等に関することについても、今後協議のうえ見直しを行う。

議会を傍聴して　ひと言



舘矢間地区
市川　由美　さん

映像配信される画面越しとは違うリアルな現場の迫力に圧倒されました。

町の未来のために真剣に議論へ臨む方々の情熱がひしひしと伝わってきました。



筆甫地区
木村　茂一　さん

一般質問と総括質疑では、議員と町長や町執行部との生のやりとりを目にすることができました。

マイクをもう少し近づけて話すと声が聞き取りやすいと思いました。

議会を傍聴してみませんか

傍聴は、町議会の活動状況をはじめ、町政の動きに触れることのできる身近な方法です。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。

再生と産業振興で町を前へ

令和７年度決算認定に関連した総括質疑の中から取り上げました

総括質疑とは、町の方針や決算全般に関して質疑するものです。

空き家利活用事業の進捗は

問　空き家の有効活用と移住支援を目的として町が空き家を借り上げ、改修が進んでいる。完成はいつになるのか。

答　小斎地区で７ＬＤＫ庭付、戸建て賃貸住宅を改修している。令和９年４月から入居できるよう整備している。入居者の募集は２月頃から開始予定である。



町が整備を進めている空き家（小斎地区）

病院経営の改善点は

問　令和７年度に行った経営コンサルタントの分析によりどのような課題や問題点が明らかになったか。また、それをどう生かすのか。

答　入院患者数減少も見込まれることから病床数や経費の見直し、職員数の適正化等の指摘があった。支出削減と同時に収益増につながる医療提供に取り組む。

中小企業振興資金の利用は

問　この資金の利用状況はどうか。

答　令和６年度と比べ７件利用が増え、約６３９万円増の１０１８万円である。借入に伴う保証料は町が負担し、低利子で事業者にとっては有利な制度である。利子補給制度もあり今後は融資枠も増やしていきたい。



プラスチック成型加工会社（丸森神明地区）

果樹産地形成事業は

問　企業参入の現状と今後どのように進めていくのか。

答　２haの果樹団地形成を想定し３候補地を選定した。町内事業者を含め県内外企業の参入を目指して、関係機関と連携を図り、企業誘致を進めている。国や県主催の農業参入フェア等に参加しＰＲする。

耕野振興センターの活用は

問　３億５０００万円をかけて整備した耕野地域振興センターが完成したが、状況は。

答　想定通りに活用できていないところがあるが、今後も施設について広く周知し、地元団体と連携しながらワーキングオフィスの利用、企業誘致や農業への展開などを進めていきたい。



活用が待たれるワーキングオフィス

安心安全な学校運営は

問　学校の運営課題について令和７年度はどのような対応や支援を行なったのか。

答　現場の状況を見ながら、スクールサポーター制度の活用や教育委員会の専門職員による見守りの強化などを行なった。学校、保護者と三者で信頼関係を築き、連携しながら子どもたちの教育環境を整えていきたい。

水道料金改定の見通しは

問　人口減少や施設の老朽化を踏まえて、今後の水道料金改定の予定はあるか。

答　有収水量と料金収入が減少する一方で、老朽化による施設修繕費は今後も必要となる。赤字経営にならない形での料金改定は今後必要と考えている。



毎日安全な水を供給している筆甫浄水場（筆甫平松地区）

行政運営推進委員の報酬は

問　行政運営推進委員の役割は重要である。活動に見合った報酬の見直しは検討されてきたのか。

答　最近は見直しの検討はなされていない。委員の意見も聞きながら、今後検討していきたい。

検証 決算審査

決算審査特別委員会

会期中４日間にわたり、町長、副町長、教育長及び担当課長等の出席を求め、令和７年度の決算審査を行いました。
質疑の一部を要約してお知らせします。

鳥獣被害対策は

問 アライグマ被害が増えているようだが、被害状況を把握しているか。

答 アライグマ被害については、令和7年度はなかったが、8年度になってから被害状況の報告があり、丸森地区は稲の苗に被害が出た。住民が県より捕獲許可を取得し、5頭捕獲したと報告があった。



かわいい顔にだまされないで！
農作物に被害をもたらすアライグマ

空き家の管理は

問 緊急性の高い空き家について特定空き家への認定を進め、強行的に強制撤去する考えは。

答 財産管理制度を活用して撤去する場合にも、行政側の財政負担があることから、状況に応じて検討していく。

消防団員の負担軽減策は

問 消防演習等の訓練内容を見直すべきではないか。

答 班のみなし統合を令和7年度から行っている。今後、実施される訓練内容も団員の負担とならないよう幹部会等で協議していく。

運営業務委託の評価は

問 シルバー人材センターでは業務請負の委託料の目標を6000万円としているが、達成率が63・6％と低い。町からは1050万円の補助金を支出しているがその評価は。

答 高齢者がお金を稼ぐことといきがいの創出という2つの目的がある。達成率は低いが、貴重な事業であると考える。

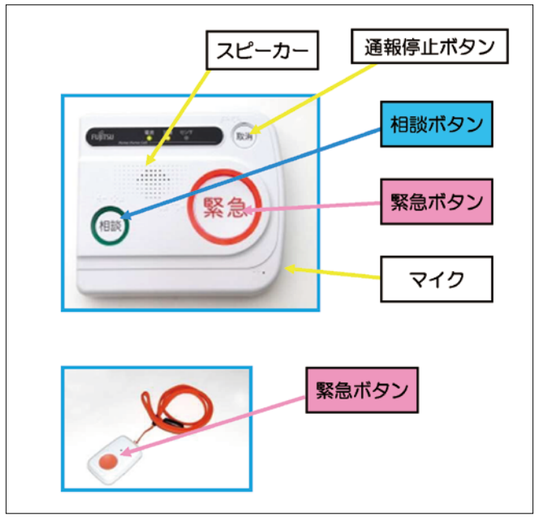


安全に注意しながら作業中

高齢者への生活支援は

問 高齢者等緊急通報システムの内容は。

答 一人暮らしの高齢者世帯の固定電話回線を使用し、機器を設置するもので、令和7年度は30台稼働している。緊急時にボタンを押すと警備会社から地区協力員に通報がいき安否確認する仕組みである。



いざという時の緊急通報システム

道路愛護会の除草作業は

問 地域の人がボランティアに近い形で草刈りをしている。地区の再編や除草剤散布の考えは。

答 少子高齢化で軒数、人口も減少している。将来的には路線ごとに町が引き受けるようになると思う。除草剤は、農作物の影響を考え、住民の意見を聞かないと難しい。

物価高騰対策は

問 物価高騰対策商品券配付事業は町民の負担軽減にどの程度つながったか。

答 町民からは早くしてほしい、まだ届かないという声があった。多少時間はかかったが4月初旬までに概ね配付できた。非課税世帯は倍の2万円とし、効果はあったと見ている。

町営学習塾の成果は

問 令和5年から開講した町営学習塾の状況は。

答 生徒は、オンライン教材とテキストなども利用した塾講師による指導を受けている。参加者数は毎年増加傾向にあり、学習意欲の向上と学習習慣の定着が見られる。



アドバイスをうけながら自主学習に取り組む生徒

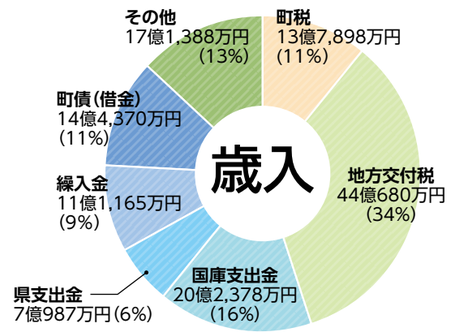
令和7年度 決算を認定

決算の審議結果

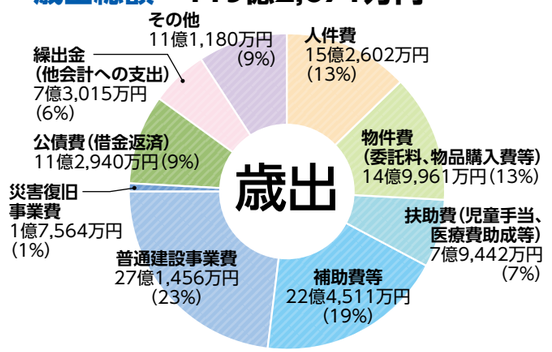
町長から提案された令和７年度歳入歳出決算の認定（一般会計、国民健康保険特別会計など５つの特別会計、丸森町病院事業会計、丸森町水道事業会計、丸森町下水道事業会計の計９件）は、決算審査特別委員会において詳細に審査を行い、本会議で採決の結果、いずれの決算も認定しました。

一般会計決算はこうなりました

歳入総額　127億8,866万円



歳出総額　119億2,671万円



歳入歳出差引額　8億6,195万円

令和８年度事業への繰越金　２億7,777万円（使途が決まっている繰越金）
財政調整基金へ積立金　３億　　円（財源を調整するための積立金）
令和８年度への純繰越金　２億8,418万円

前年度との決算額の比較（歳出）

会計名		令和７年度	令和６年度	伸び率
一般会計		１１９億２,６７１万円	１２８億７,５９３万円	▲7.4%
特別会計	国民健康保険	１４億８,２４２万円	１６億３,１８２万円	▲9.2%
	後期高齢者医療	２億１,４３８万円	１億９,５６７万円	9.6%
	介護保険	１８億７,５７９万円	１９億１,５２０万円	▲2.1%
	宅地造成事業	４８万円	３１万円	54.8%
	工場団地造成事業	４１万円	６,６０７万円	▲99.4%
	小計	３５億７,３４８万円	３８億　９０７万円	▲6.2%
計		１５５億　１９万円	１６６億８,５００万円	▲7.1%
病院事業会計				
	収益的支出	１１億７,８９７万円	１１億５,７２８万円	1.9%
	資本的支出	２億５,８８４万円	１３億５,２０２万円	▲80.9%
水道事業会計				
	収益的支出	３億６,２５８万円	３億６,１５８万円	0.3%
	資本的支出	４億１,３０３万円	３億１,０７７万円	32.9%
下水道事業会計				
	収益的支出	３億８,３６７万円	４億　１２万円	▲4.1%
	資本的支出	１３億　９１７万円	１１億４,６０８万円	14.2%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出
※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出

令和7年度各種会計決算

まちづくりへの要望

所管事務調査、決算審査を通じ、各常任委員会から出された
要望事項を取りまとめ、議会として９項目を町長に要望しました。

地域住民とともに　子どもの育成を



丸小の６年生10人も含め総勢120人が参加した、たて小に泊まろう会
ジュニアリーダーの指導でキャンドルサービス（舘矢間まちづくりセンター）

- ✦　すべての児童生徒が安全安心な学校生活を送れるよう、学校、保護者、教育委員会が連携を一層強化し、学びの環境を整えるとともに、問題の早期解決に全力で取り組むこと。
- ✦　町税や使用料の収入未済額は、物価高騰の影響などその要因を把握し、実情に即した適切な収納対策を講じること。
- ✦　丸森町MIZBEステーションのオープンに向けて、防災拠点としての整備を進めるとともに、にぎわい交流拠点としての機能も発揮されるよう、指定管理者と連携し準備を進めること。
- ✦　丸森町耕野地域振興センターは、設置の目的に沿って施設が有効に活用され、耕野地域の振興に資するよう、指定管理者とともにしっかり取り組むこと。
- ✦　移住定住政策は、子育て定住推進課を中心に庁舎内で連携を図り、相談者のニーズを捉え進めること。
- ✦　丸森病院は、院長を中心にスタッフ全員が病院の危機感を共有し、実効性のある経営改善に取り組むこと。
- ✦　農業者が減少している。地域農業の維持・発展に向け、新規就農者に選ばれる環境を整え、確保から育成・定着まで一貫した支援を強化すること。
- ✦　観光交流施設の自主的な経営努力による収益向上を促し、その実績を踏まえ指定管理料の適正化を図り、町の負担軽減と施設間連携による町内周遊及び地域経済活性化に繋げること。
- ✦　内水被害の軽減に向け、近隣住民や事業者の理解と協力を得ながら、公共下水道雨水幹線寺沢川改築工事を迅速かつ着実に進め、早期完了を図ること。

一般質問

町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをただすものです。今回は８人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
15	渡辺　政巳	●まちづくりに重要なことは 町長　俯瞰（ふかん）的視点と持続可能な判断
16	金森　裕之	●次期町政の舵取りは 町長　任期中の職責を全うする
17	船山　俊一	●人口減少下のまちづくりは 町長　町民の声を政策につなげる
18	石井　央	●町長の覚悟は 町長　先頭に立ち総合計画を推進
19	中津川　かおり	●教訓を生かした防災対策は 町長　実効性のある訓練を実施
20	山本　明徳	●特別障害者手当の周知を 町長　関係者に情報提供する
21	板橋　勇	●雨水幹線工事進捗度は 町長　宮城県と対応を協議中
22	大槻　孝雄	●町の財政と若者定住は 町長　先進自治体を参考に学ぶ





渡辺（わたなべ）　政巳（まさみ）議員

一般質問動画

まちづくりに重要なことは

町長　俯瞰（ふかん）的視点と持続可能な判断

問①まちづくりに必要なのは、１つに全国の状況などの情報収集力。２つ目は実践する行動力。３つ目は協力支援してくれる人脈が必要と考える。まちづくりを行ううえで重要と考える事について問う。

答①俯瞰的な視点と、将来世代に過度な負担を残さない持続可能な判断。本町に暮らす町民の日々の暮らしを守り、いかに良くしていくかという点に注力して取り組むことが本町のまちづくりの目指すところと考えている。

問②二瓶家からは初代江東区長や、農林省の幹部を輩出している。江東区との交流の可能性や、蚕糸業との連携など、二瓶屋敷を町が整備するメリットは大きかったと考えるが、なぜ二瓶家の申し出を受けなかったのか問う。

答②寄付ではなく買い取りが前提であった。歴史的価値は承知しながらも、使い道の定まらない中で多額の公費を投じて新たな施設を保有することは、将来世代への過度な財政負担につながりかねないと判断し取得を見送った。その後この屋敷は元地域おこし協力隊が丸森の竹材を活用した事業の拠点として準備している。

問③MIZBEステーションへの予想来遊客は60万人と推計されている。車での来場者と阿武隈急行での来場者を見込んでの人数と考えると、丸森駅からのアクセスは重要である。送迎をどのようにするのか問う。

答③本施設内にバスの停留場所を設けるとともに、駅からの二次交通の拡充を計画している。ウィークエンドバスるんるん号について本施設を経由しながら斎理屋敷、キャンプ場などの主要観光施設を巡ることができるルートを設定し、平日運行も含めたダイヤの変更を検討している。



施設内へのバス停留所も計画しているMIZBEステーション

次期町政の舵取りは



かなもり　ひろゆき
金森　裕之 議員

一般質問動画

町長　任期中の職責を全うする

保科町政の16年間は、東日本大震災、令和元年東日本台風、コロナウイルス感染の対応や災害復旧、復興事業など、町長として極めて厳しい状況下で舵取りを続けてきた期間であったと感じている。

一方で、災害対応が中心となったがゆえに、町の将来像や政策が町民に十分伝わっていないのではないかという疑問を持っている。

今後のまちづくりや、町政の継続性を町長に問う。

問①町長4期目の就任時の公約では、ときめく未来への理念の実現、全世帯安心型社会の構築、この2つが大きな柱として掲げられていたと認識している。

これらの理念や目標がどう進められ、町の全世帯の安心につながったのか。

答①平成23年1月の就任以来、生まれ育ったこの丸森町を豊かに、そして元気にしたいとの思いを常に持ちさまざまな施策を推進してきた。決して忘れることのできない、忘れてはならない出来事が令和元年の台風災害である。町を挙げて復旧、復興に取り組んできた。

平坦な道のりではなかったが、災害に強いまちの礎が築かれ、全世代の日々の安全、安心へつながっていると確信している。

問②次のまちづくりに向けて、今後どう舵を切っていくのか。また、町政を引き続き担っていく考えはあるのか。

答②これまで築き上げてきた信頼関係、強靱な基盤、行政運営の知見は貴重な財産であり、これらを次代へ継承していくことが町政の継続性の本質と考えている。

多様化する町民のニーズにきめ細やかに応え、守るべきものはしっかり守り、変えるべきものは柔軟に変える。このようなバランス感覚を持ちながら、現時点では任期中の職責を全うする。



新たなまちづくりに期待（百々石公園から望む舘矢間地区）

人口減少下のまちづくりは



ふなやま　しゅんいち
船山　俊一 議員

一般質問動画

町長　町民の声を政策につなげる

本町において、人口減少と少子高齢化が急速に進むなか、この状況を行政だけで食い止めるには限界がある。だからこそ、町民、地域、企業、関係機関等と行政が力を合わせ、限られた人材と財源を生かし、持続可能なまちづくりをどう築いていくのか、町長に問う。

問①高齢者が望む暮らし方を選び、その選択を町が支える、このような仕組みをどう構築していくのか。

答①見守りや通院、買い物を支援する。住み替えについては、ニーズや近隣の高齢者向け住宅の状況を踏まえ支援に努めていく。

問②丸森病院を核に、医療、介護、福祉、在宅支援をつなぐ地域医療体制を今後どう築いていくのか。

答②医療機関や介護事業者等と連携し、入院前から退院後まで切れ目のない医療、介護の提供に努め、医療体制を充実させていく。

問③若者や子育て世帯が住みたい時に住めるよう、住宅、定住施策をどう充実させていくのか。

答③若者定住促進住宅の整備や空き家活用を進めていく。さらに、空き家を改修して移住支援住宅とし、令和9年4月の入居開始を目指して定住促進につなげる。

問④政策の成果と課題を共有しながら町民の声を次の政策につなげる町民参加の行政運営をどう進めるのか。

答④懇談会やワークショップを通し、町民の声を施策に生かしていく。さらに行政評価で事業の見直しや成果を共有し、次の政策の質を高める行政運営を目指す。

問⑤不登校やいじめ問題に、学校、家庭、教育委員会が一体となり、対応をどう強化していくのか。

答⑤教育長情報共有と外部専門家の活用で早期対応に努める。また、地域と課題を共有し、学校を孤立させない支援体制の整備、心身ともに成長できる環境づくりに努める。



若者定住促進住宅を整備予定の旧玉川住宅跡地（舘矢間地区）

町長の覚悟は



石井（いしい）　央（ひさし）議員

一般質問動画

町長　先頭に立ち総合計画を推進

町は、令和7年3月、第六次丸森町総合計画を策定した。

町長は、職員一人ひとりの自分たちが丸森をつくっていこうという強い思いと、町民自らが将来に希望を持ち自分たちの丸森をつくっていこうという前向きな思いが込められた新たな計画の策定に至ったとし、さらなる町政の発展のため誠心誠意取り組むと結んでいる。

町は、人口減少、少子化、財政力や自主財源の確保等、課題は山積し、時代は変化している。

問①どのようなリーダーシップを発揮すべきと考えているか、町長の覚悟を問う。

答①人口減少、少子化対策は町の最優先課題であり、新たな対策を盛り込み全力で取り組む。若い人が丸森に残りたい、戻ってきたい、住み続けたいと思えるまちにするため挑戦を続ける。

また、東日本台風災害からの復旧復興の完了が近づく中で、町民の平穏な日々を取り戻すことを第一に考え、私自らが先頭に立って奔走してきた。今後も山積みする難題に対して立ち向かう勇気と覚悟が求められる。

自らが先頭に立ち、職員を鼓舞し、私に課せられた職責を全うする。

問②直近の学校教育現場における事案について、どのような解決策を講じ健全な子どもたちの成長を育んでいく考えか教育長に問う。

答②教育長　すべての教育の出発点は家庭からと言われる家庭教育と、学校が実践する何のために学び、働き、生きるかという目標意識を育む志教育の両方がかみ合うことで生きる力が育まれる。

今後はコミュニティ・スクールの導入を通じ、学校、家庭、地域が一体となった協働パートナーシップにより教育環境の改善、充実に努める。



天然芝のグラウンドで練習する丸森サッカースクール（旧大張小学校）

教訓を生かした防災対策は



中津川（なかつがわ）かおり 議員

一般質問動画

町長　実効性のある訓練を実施

近年、短時間に極めて猛烈な雨が降る災害が頻発している。令和元年東日本台風災害検証で明らかになった課題が、どのように改善され、防災体制がどの程度、実効性を持っているか問う。

問①防災無線が聞き取りにくい等の課題への対応は。

答①公式ＬＩＮＥ、緊急速報メール等複数の通信手段を活用するほか、消防団による巡回、自主防災組織の連絡網等の利用により情報格差を補っている。

問②避難行動要支援者への対応は。

答②地域の支援等関係者の協力を得ながら、個別避難計画を作成している。

問③役場周辺の浸水等により行政機能が影響を受けた場合の代替え拠点、職員体制や役場機能の継続は。

答③役場庁舎が被災した場合の代替施設は、令和９年春にオープン予定のＭＩＺＵＢＥステーションを第１順位の拠点として災害対応する計画である。平常時の業務から非常時の業務へ円滑に引き継ぐためにも、実効性のある計画を随時改訂していきたい。

問④道路寸断が発生した場合の道路復旧の優先順位と孤立集落対策は。

答④消防や自衛隊等の緊急車両の通行が可能となるよう必要最小限の車線を確保し、緊急輸送道路として優先路線との接続を考慮する。

早めの避難により孤立しないよう自助共助の取り組みについて、防災訓練や講話を通じて周知する。

問⑤備蓄と避難所対策は。

答⑤東日本台風災害時の最大避難者数を参考に、食料や衛生用品を役場庁舎、保健センター、各まちづくりセンターに配備している。

問⑥防災訓練の検証は。

答⑥昨年度の宮城県９．１総合防災訓練や教訓をもとに、福祉避難所開設時の連絡体制や要配慮者を移動させる場合の訓練を行った。



９月７日の大雨による避難所開設で最新の情報を共有する役場職員（大内まちづくりセンター）

特別障害者手当の周知を



山本（やまもと）　明徳（あきのり）議員

一般質問動画

町長　関係者に情報提供する

特別障害者手当は、20歳以上で精神、知的及び身体に重度の障害があるため、常時特別な介護を必要とする状態にある在宅の人が対象で、月額約3万円が支給される国の制度である。

障害者手帳を持たない人であっても医師の診断書があれば申請できるため要介護認定4、5の人や重度の認知症の人も対象となる可能性があり、より多くの人に利用されるべきである。以下、受給者の状況と課題について町長に質問する。

問①本町での受給状況と申請状況はどうか。

答①令和8年7月時点での受給者は11名であり、そのうち障害者手帳等を持っているのは10名である。3年度以降の申請者は12名で、認定者は7名である。

問②重度の障害を持っている方と要介護認定4、5でグループホームや在宅で介護を受けているのは何人か。また、手当を申請できると思われる該当者は把握しているのか。

答②在宅やグループホームで介護を受けながら生活しているのは75名である。しかし、手当の認定は診断書により総合的に判断されるものであり、障害等級や介護度で該当するかどうかを判断するのは困難である。

問③受給者が少ない要因として厚労省は認知度が低いことだと指摘している。75名いる在宅者の中にも受給可能な人はまだいると思うが、どのように周知していくのか。

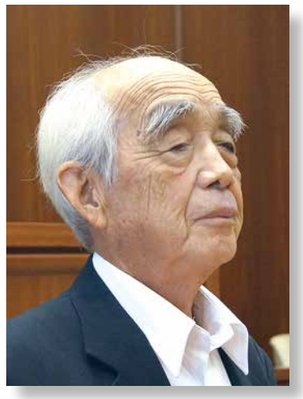
答③各種障害者手帳の交付の際に手続き可能な制度の一覧表を配付して情報提供を行ってきたが、特にこの制度について個々の状況を確認しながら周知に努める。

また、介護認定の有無が手当の認定要件でないことから、これまでは行っていなかったが、今後介護支援専門員等に情報提供することを検討していく。



手当が支給されるようになった室橋さん（筆甫地区）

雨水幹線工事進捗度は



板橋（いたばし）　勇（いさむ）議員

一般質問動画

町長　宮城県と対応を協議中

寺沢川から阿武隈川への直接放流管工事も終わり、残る工事は寺沢川からの公共下水道雨水幹線改築工事のみとなった。

問①令和8年度末に完成とのことだが、600mのうち、現在50mのみ完成である。工事の進捗状況と、今後の見通しは。

答①残る550mを4工区に分割し入札を執行した結果、2工区の工事契約に至っている。残る2工区については入札辞退となった。今後の対応については、宮城県の担当課と現在相談している状況である。

問②各地で線状降水帯が頻繁に発生している。仮に1時間に約100㎜の雨量となった場合、現在の排水施設の能力で対応できるのか。

答②新たに整備した神明雨水ポンプ場の排水能力は、下水道施設計画設計指針に基づき計画されている。

令和元年東日本台風規模の時間雨量60㎜に対応した構造で、一概には言えないが時間雨量100㎜の場合、低地での浸水は、ある程度予想される。

問③臨時議会で川平線道路改良工事が落札率99・47％、舘矢間小学校体育館長寿命化工事は落札率99・8％との報告を受けた。議員から高い落札率と町内一者のみの応札に対し疑問の声が出た。いずれも条件付き一般競争入札である。応札業者が一者のみ、落札率が100％に近いのはなぜか。

答③現在は応札者が市販の積算用ソフトを使うことで、予定価格に近付けることが可能である。また、国等の契約の基本方針に準じ、中小企業者の機会を確保するために必要な施策を講じるよう努めなければならないとされている。地元業者の受注の機会を確保し、その育成を図るため条件付き一般競争入札の総合評価落札方式を採用している。



丸森町公共下水道雨水幹線（寺沢川）改築工事（町道神明南町東線）

町の財政と若者定住は

町長 先進自治体を参考に学ぶ



大槻（おおつき） 孝雄（たかお） 議員

一般質問動画

丸森町は人口減少が今後さらに進み財政の硬直化も懸念され、厳しさも増す。

令和12年度の財政見通しでは、歳入減少が進むなか、財政調整基金も減少する見通しである。人件費など義務的経費比率が増加、投資的経費は8年度の3分の1に減少した場合、行政サービス継続が可能なのか。公共施設や病院など維持管理費も増加するなか、行政改革を急ぐべきと考える。

しかし改革は単に歳出削減だけではなく、若者が住み働き、子育てできる環境を整えることが重要である。境町モデルを参考に稼ぐまちづくりを進める必要があると考え町長に問う。

問①令和13年度から16年度までの財政の見通しを作成し、行政改革へ着手する考えは。

答①10年間を見据えた財政シミュレーションは作成している。新たな行政評価制度を導入し健全で持続可能な行政経営に努めていく。

問②病院、公共施設の維持管理経費削減のため、町公共施設等総合管理計画を見直し、有効活用や統廃合の検討をすべきと考えるが。

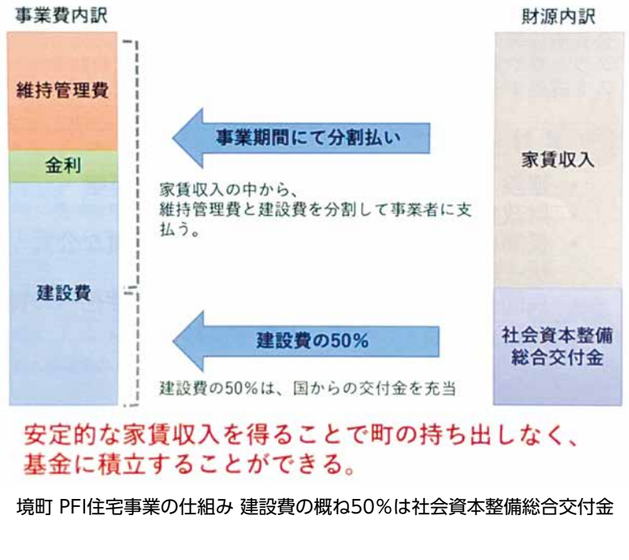
答②公共施設の適正配置や有効活用は極めて重要な課題である。現時点では、現行計画に基づき適正な管理に努めていく。

問③若者定住、子育て支援、英語教育に予算を重点的に配分してはどうか。

答③人口減少や少子高齢化が進むなか、限られた財源を町の重点施策へ戦略的に配分していく。

問④PFI住宅※や、ふるさと納税など稼ぐ自治体である境町モデルに学び、町長をトップに丸森町創生戦略室を立ち上げる考えは。

答④人的資源に限度があり専門部署を増設する予定はないが、稼ぐ自治体など先進自治体から学ぶべきことはしっかり学び、更なる町発展に取り組んでいく。



境町 PFI住宅事業の仕組み 建設費の概ね50%は社会資本整備総合交付金

※PFI住宅とは
民間の資金やノウハウを活用し、建設、管理される公的賃貸住宅

議会懇談会での民意はどうなったのか

令和８年５月の懇談会での質問等について確認・調査した結果を報告します。

【町民が利用しやすい運営を】

問 阿武隈急行線や斎理屋敷は、町民割引などを導入して利用客を増やすことはできないか。

答 阿武隈急行線は、町民が2人以上で利用する場合、半額を助成している。また、通常運賃で利用した場合でも、10回利用すれば５００円分のあぶくま商品券を提供している。斎理屋敷は、小中学生のＡＺ９パスポート利用による無料入館のほか、大人向けに１５００円の年間パスポートを導入している。

四季折々の企画展イベント等とあわせ、町民の皆様が年間を通じて楽しめるよう、このような制度をさらに周知していく。





利用促進のためさまざまな割引サービスがある

【危険箇所の対応は】

問 空き家の敷地から大木が道路に倒れそうになっているなど、地域で対応できない危険な箇所を、町が調査して対応できないか。

答 町道などの通行に支障がある枝葉は、住民からの通報や道路パトロールにより道路管理者の権限内で適切に処理している。

倒れそうな木があっても通行の妨げにならなければ処理できず注意喚起を行うのみである。危険箇所を調査することは考えていない。

【サービス向上を】

問 あぶくま荘で昼食の予約ができない。来客が少ないので予約をしなくても大丈夫と言われた。サービス低下の声もあり、利用しづらいので改善してほしい。

答 あぶくま荘のレストランでは、現在昼食の予約受付を行っている。今回の件を受け、利用案内が的確に行われるよう予約ルールの周知徹底と、サービス向上に努めていく。

【バリアフリー環境整備を】

問 集会所をバリアフリーにしてほしい。

答 集会所は地域の施設であり、地域の方々が維持管理を行っている。町では住民集会施設整備事業補助金により、集会所の新築や修繕等を支援している。バリアフリー化も、要件を満たせば補助対象となるので、企画財政課に相談してほしい。

所管事務調査

決算に関して所管する課から
聞き取りや現地調査を行いました

総務民生常任委員会

- 総務課
- 企画財政課
- 町民税務課
- 保健福祉課
- 子育て定住推進課
- 会計室
- 丸森病院
- 選挙管理委員会
- 監査委員
- 固定資産評価審査委員会

この調査に注目

◆総務課
丸森町ＭＩＺＢＥステーション整備の進捗状況について

令和９年４月29日のオープンに向け順調に工事が行われていた。業者と随時打ち合わせをしており、資材不足は今のところ発生していないという説明であった。

委員からは、準備等に遅れが出ないよう進めること、暑さ対策を行うこと、看板は分かりやすくドライバー目線で設置することなど意見が出された。

来遊者の期待に応えて再び訪れたくなるような施設となるよう期待する。

◆委員長コメント
「丸森町の防災とにぎわい拠点となるように」


来春のオープンにむけて建設工事が進む水防センター

総務民生常任委員会では６課について８項目の説明聴取及び現地調査を実施。

産建教育常任委員会

- 農林課
- 商工観光課
- 建設課
- 教育委員会
  - 学校教育課
  - 生涯学習課
- 農業委員会

この調査に注目

◆建設課
内水氾濫対策の進捗状況について

内水氾濫対策となる直接放流管工事の進捗状況を調査した。

本工事は、浸水被害の軽減を図るため、丸森町中心部西側の山間部から流れ込む雨水を北側へ導き、阿武隈川右岸へ直接放流するための管を14億1158万円の工事費をかけて新設するものである。

工事はすでに完了しており、今後の適切な運用により、豪雨時の浸水リスクの軽減と、住民の安心安全の確保につながることが期待される。

◆委員長コメント
「直接放流管の工事が完了」


完成した直接放流管の現地視察（丸森玉貫地区）

産建教育常任委員会では４課について６項目の説明聴取及び現地調査を実施。

政務活動報告

政務活動費は、調査研修等のため、議員１人当たり年額６万円を上限に交付されます。
上限を超えた場合は、自己負担となっています。

6月15日から16日　報告者　大槻孝雄 議員

茨城県境町

令和４年度の移住者数1245人、６年度の人口111人増など、全国から注目を浴びる境町を視察した。

１日目は、子育て世帯や若者が移住しやすい環境整備、ふるさと納税による自主財源の確保、公債費の削減など一連の循環の仕組みについて詳細な説明を受けた。良いところは徹底的に真似し、稼ぐ自治体境町モデルを官民一体で作り上げている。

２日目は、ＰＦＩ事業のマンションや、住み続ければ無償譲渡される住宅、子育て支援施設、サツマイモ工場など14施設を見学し稼ぐ境町を実感した。


リモートワークができる子育て支援施設

支出状況　　単位：円

議員名	調査研修費	政務活動費	議員名	調査研修費	政務活動費
大槻　孝雄	54,796	54,796	船山　俊一	54,796	54,796
金森　裕之	54,796	54,796	佐藤　吉市	54,796	54,796
菊池　修一	54,796	54,796			

6月21日から23日　報告者　山本明徳 議員

長野県松川村　栃木県芳賀町

人口減少をくい止め移住者増を目指す本町の課題解決のために、令和５年度に440人の転入者と人口65人増の実績があり、ちひろ美術館で有名な松川村を訪問した。村には産婦人科がないものの、近隣病院で分娩するための交通費や宿泊代を補助する制度がある。

また、お試し住居提供や果樹のオーナー制度で村の魅力に触れる関係人口増を図っている。

芳賀町では、カーボンニュートラルを目指し、水田、小麦畑、大豆畑等農地を利用してのソーラーシェアリングの現場を見学し説明を受けた。


水田で発電しながら米も収穫するソーラーシェアリングの説明を聞く（栃木県芳賀町）

支出状況　　単位：円

議員名	調査研修費	政務活動費	議員名	調査研修費	政務活動費
中津川かおり	38,403	38,403	渡辺　政巳	39,403	39,403
大槻　孝雄	39,903	5,204	石井　央	40,154	40,154
山本　明徳	39,753	39,753	板橋　勇	40,003	40,003
鈴木美智子	40,357	40,357			

丸森町議会議員補欠選挙当選者のお知らせ

令和8年10月18日に行われた補欠選挙で当選した新議員を紹介します。

任期は9年11月30日までです。



◇一條　功（75歳）
当選回数4回



◇清野　宏和（50歳）
初当選



◇市川　由美（54歳）
初当選



◇西岡　恵豊（44歳）
初当選

なお、所属する委員会等については、次回の議会だよりにてお知らせします。

監査委員の選任

令和8年8月12日の議会臨時会において、識見を有する監査委員選任の議案が全会一致で同意されました。

任期は8月13日から4年間です。

なお、前任の今村勝則氏は8月2日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◇代表監査委員（新任）
佐藤　長壽郎　さん



仙南地域広域行政事務組合議会議員選挙結果

令和8年7月10日の議会臨時会において、選挙の結果、船山俊一議員が当選しました。

県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙結果

本定例会において、選挙の結果、大槻孝雄議員が当選しました。

■仙南地域広域行政事務組合議会議員
仙南2市7町の議会議長と、議会から選出された議員で構成され、事務組合の条例や予算などを審議します。

■県後期高齢者医療広域連合議会議員
宮城県内の市町村議会議員からそれぞれ選出された議員で構成され、広域連合の条例や予算などを審議します。



議会運営委員会委員の構成

本定例会にて選任された議員のほか、欠員となっていた副委員長の互選を行い、板橋勇議員が選任されました。新しい議会運営委員会構成は次のとおりです。

委員長　金森　裕之
副委員長　板橋　勇
委員　大槻　孝雄
山本　明徳
渡辺　政巳
石井　央

丸森町議会からのお知らせ

丸森町議会議員鈴木美智子氏、菊池修一氏から、令和8年8月31日付で辞職願が議長あてに提出されました。地方自治法の規定に基づき、同日付けで議長において議員を辞職することについて許可しました。

議員の会議出席状況

令和8年4月～9月30日　　○：出席　×：欠席　△：遅刻・早退　－：員外　産：産休

月	日	公務名 ※丸森町議会及び宮城県議長会、仙南議長会が主催している会議や研修等を抜粋しています。 ※会議名等は略称を使用しています。	1 八巻 眞由	2 中津川かおり	3 大槻 孝雄	4 金森 裕之	5 山本 明徳	6 鈴木美智子	7 大槻 正儀	8 渡辺 政巳	9 菊池 修一	10 石井 央	11 海川 正則	12 板橋 勇	13 船山 俊一	14 佐藤 吉市
4	7	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	14	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	議会懇談会実行委員会	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	－	○	○	○
	20	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20	議会改革等調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	－
	27	産建教育常任委員会	－	○	－	－	－	－	○	－	○	○	○	○	○	－
5	14	仙南地方町村議会議長会　議長会議	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
	15	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	22	宮城県町村議会議長会　臨時総会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
	26	全国町村議会議長･副議長研修会（東京国際フォーラム）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
	27	議会懇談会（丸森・筆甫・耕野）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	28	議会懇談会（金山・舘矢間・和田）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	29	議会懇談会（大内・小斎・大張）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
6	3	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○	○	△	○	－	－	○	○	○
	3	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	10	第３回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	総務民生常任委員会	○	－	○	○	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－
	10	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	11	第３回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	11	総務民生常任委員会	○	－	○	○	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－
	12	第３回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	29	仙南･亘理地方町議会議長視察研修（29日～7/1日）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
7	1	議会広報常任委員会	産	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	2	町村議会議員講座（仙台市自治会館）第１回	産	○	○	○	○	－		○	×	－	×	○	×	×
	3	町村議会議員講座（仙台市自治会館）第２回	産	－	－	－	－	○		－	×	○	×	－	×	×
	8	議会広報常任委員会	産	○	○	○	○	○		－	－	－		－	－	－
	10	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○		○	○	－		○	○	○
	10	第４回議会臨時会	産	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
	10	議会改革等調査特別委員会	産	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
	14	議会広報常任委員会	産	×	○	○	○	○		－	－	－		－	－	－
	15	仙南･亘理地方町議会常任委員長研修会（7/15-7/16）	－	－	－	○	－	○		○	－	－		○	○	○
8	6	宮城県町村議会議員セミナー（蔵王町 ふるさと文化会館）	産	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	×
	12	第５回議会臨時会	産	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○
	24	総務民生常任委員会所管事務調査	産	－	○	○	○	○		○	－	－		－	－	－
	26	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○		○	×	－		○	○	○
	26	全員協議会	産	○	○	○	○	○		○	×	○		○	○	○
	26	議会改革等調査特別委員会	産	○	○	○	○	○		○	×	○		○	○	○
	27	産建教育常任委員会所管事務調査	－	○	－	－	－	－		－	×	○		○	○	－
	28	町村議会広報研修会（東京・渋谷公会堂）	産	○	○	○	○	○		－	－	－		－	－	－
9	2	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○			－		－		－	－	－
	4	全員協議会	○	○	○	○	○			○		○		○	○	○
	7	議会運営委員会	－	－	－	○	－			○		－		○	○	○
	7	全員協議会	○	○	○	○	○			○		○		○	○	○
	2	第６回議会定例会（15日まで）	○	○	○	○	○			○		○		○	○	○
	8	決算審査特別委員会（14日まで）	○	○	○	○	○			○		○		○	○	－
	11	議会改革等調査特別委員会	○	○	○	○	○			○		○		○	○	○
	15	産建教育常任委員会（所管事務調査まとめ）	－	○	－	－	－			－		○		○	○	－
	15	総務民生常任委員会（所管事務調査まとめ）	○	－	○	○	○			○		－		－	－	－
	15	議会運営委員会	－	－	○	○	○			○		○		○	○	○
	16	丸森中学校模擬議会に向けた議会講座	－	－	－	－	－			－		－		－	○	○
	24	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○			－		－		－	－	－
	28	全員協議会	○	×	○	○	○			○		○		○	○	○
	29	明日の丸森を考える丸森中学校模擬議会	○	○	○	○	○			○		○		○	○	○

議員が取材する企画シリーズ

丸森に生きる 33



本場の味でにぎわいの場所に

丸森地区

タイ料理店経営　アリサ さん

飲食店勤務の経験を活かして丸森でタイ料理店を開業した、タイ出身のアリサさんにお話を伺いました。

Q　丸森に来た経緯を教えてください。

A　仕事でタイに来ていた丸森出身の夫と出会い、タイで結婚、出産を経て、娘が3歳の時に丸森に来ました。

Q　丸森での暮らしはいかがですか。

A　私はタイの田舎育ちなので、丸森の暮らしは合っています。畑仕事が大好きで、タイの唐辛子やガパオなどを自分で育てていました。

Q　飲食店を始めたきっかけは。

A　日本に来る前はバンコクの繁華街に住んでいて、にぎやかな場所で人と交流するのが好きでした。

丸森でも本場のタイ料理を味わってもらいながら、人が楽しく行き交う場所を作りたいと考えて、飲食店を開業しました。

Q　どんなお店を目指したいですか。

A　タイ料理は辛いイメージがありますが、辛くない料理もあります。たけのこなど丸森の食材も取り入れているので、もっとたくさんの人に来てもらえるお店にしたいです。

Q　まちづくりへの思いは。

A　タイでは、夜に道路を歩行者天国にして、多くの人が店を出して楽しむナイトマーケットなどがあります。

丸森でも人が集まるお祭りやイベントがもっとたくさんあったら嬉しいです。私も町のにぎわいを一緒に作っていけるように、頑張りたいと思います。

（八巻　眞由　委員）

次の議会は

12月8日（火）午前10時
開会予定

●日程が変更になる場合があります。

問い合わせ先 議会事務局 ☎0224-72-3038

スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで
ライブ中継しています

●一般質問は過去の映像を常に視聴できます。

議会だよりの表紙の写真を募集しています

【募集要項】

対 象 者：丸森町に住んでいる方
被 写 体：丸森町内の風景やイベント等で議会だより発行時期に合ったもので人物が写っているもの（必ず被写体の議会だよりへの掲載許可を得てください）
時　　期：令和９年２月１日発行の議会だより
締め切り：令和９年１月４日(月)午後５時まで

※応募方法等についての詳細は議会事務局のホームページをご覧ください。

表紙のことば

子どもたちも主権者

今回で４度目となる中学生の模擬議会を行った。

主権者とは国や町のあり方や方向を決めていく責任者である。模擬議会へ出された一般質問はクラス毎に調査し話し合いまとめたものであり、その過程こそが主権者としての学びである。

今回は、人口減少や空き家活用、阿武隈急行の利便性向上のために財源まで踏み込んだ質の高い質問であり、我々議員も頭を悩ませながら回答を考えた。

令和８年度に実現した学校へのスポットクーラーの整備は、７年度の模擬議会の質問がつながったものであることを申し添える。

（山本　明徳　委員長）

発行・編集責任者／議長　佐藤吉市
印刷／佐藤印刷株式会社

〒981-2192　宮城県伊具郡丸森町字鳥屋120
TEL 0224(72)3038　FAX 0224(72)3044
E-mail：gikai@town.marumori.miyagi.jp

議会広報常任委員会

委員長　山本　明徳
副委員長　中津川かおり
委　員　八巻　眞由
大槻　孝雄
金森　裕之

VEGETABLE OIL INK　環境に優しい植物油インキを使用しております。
UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。